

光輝く銀メダルを胸に

高砂市立松陽中学校
野球部監督 中上雅文



去る、8月18日から21日までの4日間、憧れの横浜スタジアムで開催されました第14回全日本少年軟式野球大会において、我が松陽中学野球部は、準優勝の好成績をおさめました。

振り返れば、このチームは実力がありながらその力を出しきれず敗れ去るという悪いパターンの連続でありました。

—中略—

今まで自分勝手な言動があったのが、少しずつではありますが、それがなくなり、練習にも意欲的に取り組みが為されるようになりました。人が何かを成し遂げるために必要な源は「意欲・やる気」のメンタルな部分であることを改めて痛感しました。

—中略—

いよいよ本大会を迎えることになりました。憧れの横浜スタジアムに足を踏み入れると言ひ様の無い緊張感に包まれました。開会式では、地元中学生の吹奏楽部が演奏し、50名のバトン部が選手を先導する国際都市らしい華やかさで、しかも格式の高いものでした。

—中略—

優勝こそ逃しましたが、得たものは計り知れないほど大きく、多くありました。主将をはじめ、多くの選手が涙を流しました。一生懸命に努力・精進した者にだけが流せる涙であると思います。そして野球を心の底から楽しめました。これもひたむきに頑張ってきた者だけが味わえる『楽しさ』です。

—中略—

試合が終わってしばらくして、3年生に「日本一になったら監督やめようと思ったのに、やめられへんな。」の語りかけに、「あと10年頑張ってください。」と励まされました。今年もまた、いい選手に恵まれた素晴らしい1年間でした。

彼らからプレゼントされた銀メダルは、大切な宝物として家に飾っておきたい。今後も気力・体力の続く限り、選手と共に、飛び上がるくらい喜んだり、涙を流すほど悔んだりという体験をしたい。

「平成9年夏・全日本少年軟式野球大会準優勝記念文集」より抜粋

於：横浜スタジアム